



問合先: 岩手大学教育学部 〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番33号 TEL.019-621-6504 FAX.019-621-6600  
E-mail edu jim@iwate-u.ac.jp URL http://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/

この冊子はグリーン購入法に基づき基本方針の判断基準を満たす用紙を使用しています。



### 秋田大学教職大学院との交流会開催 平成28年9月28-29日

#### 学習交流会と沿岸地域視察をおこないました。

〔子ども支援力開発プログラム 現職院生〕 信 夫 辰 規



9月28日、29日に秋田大学教職大学院との交流会及び被災地学校訪問が行われました。秋田大学教職大学院からは19名(引率教員含む)が来訪し、私たち教職大学院生と交流会を行いました。両教職大学院とも今年度スタートしたばかりであり、交流会では、両県の教育課題について発表し合いました。秋田県の教育については、特に「学力向上」に、岩

手県の教育については、特に「復興教育」について協議がなされ、お互いの県の教育について深く知る機会となりました。

また、29日には、山田町立船越小学校と大槌町立大槌学園を訪問しました。震災からの復興を行う教育活動と町の震災当時の様子を聴き、校舎見学及び現在の町の様子について視察しました。今回のこの機会を大切に、今後も交流していきたいと思いました。



### 第2回授業公開・研究会

平成28年12月16日に、「リフレクションII」(心理教育の振り返りと改善の検討)の公開授業と授業研究会が行われました。データ分析に基づく教育プログラムの効果検証の必要性、大学院での学びの連携協力校への還元、人材育成の観点からの授業の在り方など、多くの意見が出されました。今後の授業改善につなげていきたいと思ひます。

### 専門実習実施 平成28年10月-3月

〔授業力開発プログラム 学卒院生〕 村 上 貴 大

私は高等学校の数学の教員を目指しています。4月当初の専門実習は、公立の中学校で行いました。T2(授業補助)の立場での授業やICTを活用した授業を見させていただき、とても新鮮に感じたのを覚えています。T2が効果的に働いているのを見て、個への対応がどうしても行き届いていると思ひました。子ども支援という点では、授業中での個への対応もそうなのですが、特別支援学級にいる障がいのある生徒とも関わる貴重な体験をさせていただくことができました。



11月から3月までには、学校マネジメント力、授業力、子ども支援力の総合実習があります。ここでは附属小学校、附属中学校を中心としつつ、附属幼稚園、附属特別支援学校での実習にも取り組みます。授業を批判的に見る力を高めることを目指しています。

来年度からは高等学校での実習が本格的に始まります。中学校と高等学校で関連するところ、そうでないところが様々な場面であると思ひますが、その点は考慮しつつ、実習での経験をこれからの授業づくりに生かしていこうと思ひます。

### 教育実践研究、ゼミでの取組

〔授業力開発プログラム 現職院生〕 吉 田 隆

私は、これまで小学校教員を20数年経験し、その中で「子どもたちが楽しく学び、力を付ける授業はどのようなものか」を意識し学習を展開してきました。そこで、教職大学院では、小学校社会科における授業の在り方について、特に、子どもたちが主体的に学習し、資質・能力を獲得していく授業のあり方について研究を進めています。

次期指導要領では、予測困難な時代に、一人一人が未来の創り手となるのが期待されており、社会科においても、より一層の主体的・探求的な学びが求められています。そのためには、いかに子どもたちが、社会的事象を「自分事」としてとらえ、学習に臨むかということが重要だといえます。そのことを「切実感」というキーワードとしながら、社会的事象に対し追究する児童を育成する授業の在り方について、ゼミ担当の先生方とディスカッションし、新たな知見を獲得しようと努めているところです。

### 教育学研究科(教職大学院) 教員からごあいさつ

実務家教員 多 田 英 史



教職大学院は、「学校教育に関する理論と実践の融合」を理念としています。学校教育の課題が多様化、複雑化する中で、高い専門性と実践力を身に付けた高度専門職業人としての人材育成に特化した専門職大学院を目指すものです。

2年間の学びを通じて、現職院生には、これからの岩手県の学校教育を牽引するスクールリーダーとして、また学卒院生には学校教育に従事できる即戦力の教員として、それぞれ大きく成長することが期待されています。